

こまざわ 経済通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1

学部長あいさつ

「グローバル・ローカルな視点の育成にお力添えを」

姉 齒 暁（教授、消費経済論担当、2015年学部長就任）



常日頃より同窓会のみなさまには多大なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

経済学部の現状と今後の課題について述べさせていただきます。

まず、今年度、学部は新たに「中国経済論」「経済理論」がご専門の2名の新任教員を迎え、さらに機動力が増しました。その一方で、この間、多くの先生が退職年齢を迎えられました。同窓会の発展を長年にわたって支えてこられた友松憲彦先生、谷敷正光先生も今年退職されましたが、これからも変わらず同窓会と学部をつなげるお役目を担っていただけるものと確信しております。

学生たちの多面的な活動の一部についてもご報告申し上げます。

昨年度、同窓会のご支援をいただき大成功を取めた学生シンポジウムは、その成果が認められ、今年度より公的な行事として大学から毎年支援を受けられることとなりました。すべての学部、すべての学年がワンキャンパスに

集中する本学の特徴をいかし、専門の壁を超えて学び合うこの行事が、企画から運営に至るまで学生たちの手で行われていることは大変喜ばしいことです。学部では、教員2名をゼミナール連合会の活動をサポートしていく担当として配置し、学生たちの主体性を後押しする体制を整えております。今年度の学生シンポジウムは11月20日（日）13時より、駒沢キャンパス9号館にて開催されます。是非とも日頃のゼミ活動の成果をご覧いただきたく存じます。

また、ITプロフェッショナルクラスの学生が昨年度に引き続き学生ビジネスプランコンテストで受賞を果たしました。そのほか、地域と結んで行われるゼミ活動の成果が認められ、地域とゼミが共同で実施する企画も増えております。今年度2つの受託研究を受けるなど、学生たちが調査や地域活性化策の立案に取り組んでおります。

近年、多くの地域で学生の視点をいかした地域おこしが行われています。一方でナノ単位の秒数で世界を駆け巡るマネーが世界経済を翻弄するなか、地域社会はどうそれに対応すべきかが現代社会の重要な課題の一つとなっています。地域の発展に活用できる眠った資源の発掘に学生や研究者の視点をいかしたいという要請を受け止め応えていくことも、世界経済の動向を掴むことと同じく大切な大学の役目であると考えます。

地方におられる同窓のみなさま、国外に拠点をおもちのみなさまにおかれましても、是非とも学外に開かれたこうした「学び」の機会を学生たちに提供するため、ご助力をお願いいたしたく存じます。

今後ともお力添えのほど、よろしくお願いいたします。

ホームカミングデーに集まろう

ホームカミングデー開催日：10月30日（日）

※詳細は、本誌8頁をご覧ください。

経済学部ゼミナール連合主催の学生シンポジウムにご参加を

学生たちが、ゼミ毎に日ごろの研究成果を報告します。

ぜひ研究成果をご覧にきてください。

学生シンポジウム開催日：11月20日（日）

※開催時間・場所は、経済学部ウェブサイトにて公開予定です。

卒業生シリーズ

点 と 線

新井 健 吾 (足利銀行勤務、2016年3月卒業)

「人生はチョコレートの箱のようなものだ。開けてみるまで中身はわからない。」これは映画フォレスト・ガンプの中でのセリフだが、私にしてみれば、駒澤大学で過ごした学生生活はまさにチョコレートの箱のようだった。

志望校に落ち、受験のために一度だけ足を運んだ駒澤大学に通うことになった私は、慣れない環境に不安を覚えながら通い始めたのをいまでも覚えている。だが、学部やサークルの友人、個性豊かな教授、多様な授業との出会いの一つひとつが、私にとってはかけがえのない財産となった。

また、授業やバイトのない時間のほとんどは、趣味の映画に費やした。映画の世界にのめり込めばのめり込むほど、「字幕を外したい。英国を話せるようになりたい。」という思いに駆られ、3年次には1年間の休学をしてNYに留学をした。

留学生活の中では、語学のみならず、様々な国の文化や考え方に触れ、新しい視点や広い視野を得ることができた。

何事も主体的に学びに行く姿勢が身についたのもこの頃かもしれない。

帰国後は、かねてより興味があった国際開発のゼミへの移籍やITベンチャーでのインターン、20カ国を超える国と地域へのバックパック旅行など、様々なことに挑戦した。失敗することも多かったが、周りの人の支えもあり、すべてやり抜くことができた。

卒業後は、海外で働きたい気持ちも大きかったが、それ以上に生まれ育った地元に戻り、もう一度自分と向き合いたいと考え、地元の銀行に就職した。

上司からは常々「素直な心、そして感謝の心を持って、何事にも一生懸命になりなさい」と言われるが、それはまさしく私が駒澤大学で過ごした日々の中で得たものだった。

在学生の皆さん。素直な心、そして感謝の心を持ち、学生時代という限られた時間の中で精一杯の努力をしてください。

今は何の関係もないただの点の一つひとつが、やがては線となり、そして結びつき、あなたという人間をそして人生を形作っていくことでしょう。

人生はチョコレートの箱のようなもの。開けてみなければ中身はわからないのだから。

卒業生シリーズ

現状の基点となった母校 駒澤大学

添野 公元 (会社役員)

2002年3月大学院修士課程商学研究科修了マーケティング専攻

現在、私は祖父が事業を立ち上げ、祖母に縁の日本橋に本社を置く企業で勤務しています。大学時代にマーケティングに出会い、担当である曾我教授に出会うことができ、商学研究科（マーケティング専攻）に入学しました。

大学院での生活は、曾我教授をはじめ、研究科の先生方に指導いただき、多大なる時間を費やしていただきました。そこで、物事の事象の成り立ちやその構造、体系的に考える力など、現在の基礎となる考え方を多く学びました。また、ゼミ生との交流も、改めて自分の考えを精査することもでき、新しい発見もできる有意義な時間でした。ゼミ合宿での個々の論文をより高みにもっていく議論は、今も懐かしく思います。

学生時代は研究科での研鑽も積みつつ、ボランティアでサッカー指導者をすることができました（最終的には10年以上、かつ細々ながらと現在も携わることができています）。指導の経験から身体的・精神的・組織マネジメントなどを学びました。サッカーを通じて、精神的なものを学んでいる最中、現在の趣味である茶道（表千家）に出会いました。茶道との出会いは母校の「禅」の心に惹かれたのかもしれませんが。

卒業後は、ゼミでの学びを大いに活かすことのできるマーケティング関連であるマーケティング・リサーチの会社に入社し、幅広い業種・幅広い業務に携わって参りました。数年ほど勤務した後、家業の会社を継ぐ準備のため、家業会社に戻り、現在に至ります。現在は既存の家業に加え、新事業として立ち上げ、日々さまざまなクライアントの課題を解決するため、クライアントに寄り添いながら、課題解決に向けてチーム一同努めているところです。

現在、私自身がこのようにいるのは、これもひとえに、マーケティングとの出会い、曾我教授との出会い、そして母校である駒澤大学との出会いがあったからこそ、今があると思います。多くのことを学ぶ機会をいただいた母校である駒澤大学に感謝するとともに、ますますの発展をお祈りしております。





研究室訪問シリーズ



増田 幹人 (専任講師、人口論担当、2015年就任)

2015年4月より駒澤大学経済学部に着任しました。私の専門は「人口学」という分野で、日本で進行している少子高齢化、人口減少の社会経済的な原因や、少子高齢化、人口減少が社会経済に及ぼす影響などについて研究を進めています。学部においても、「人口論」という講義科目を通じて「人口学」を学生に教えています。

「人口学」は、マクロ、ミクロいずれの視点も重要であり、マクロの観点から、国の経済、年金制度、労働力などに及ぼす影響を研究する一方、ミクロの観点から、社会経済が個人の出産行動に及ぼす影響などについても研究を行っています。また、「人口学」はときに社会学や歴史学といった経済学以外の分野も関係してくるため、学際的な幅広い分野です。例えば、日本において進行している少子化の原因には、不景気といった経済学的な要因がある一方、価値観の変化といった社会的な要因もあります。

ゼミにおける活動もこのような幅広い視点に立ち、日々議論を行っています。ゼミの活動は社会人として活動していくための基礎固めの場とも考えていますので、私はゼミに力を入れています。そこで重きを置いているのは客観的思考、自主性、積極性です。私は、客観的な思考をゼミ生に身につけてもらえるように、データを見ることの重要性を日々伝えています。また、ゼミでのイベントも、基本的には学生主体で行っています。去年は、同じ経済規模や人口規模なのに出生率が異なる自治体を選び、その理由を明らかにするため、実際に自治体に行って実地調査を行いました。また、今年も、2泊3日のゼミ合宿のため千葉県保田市に行き、初日は「人口学」に関連するテーマについてゼミ生にグループを作って発表してもらい、2日目は海に遊びに行きました。実地調査は学生の発案により行われましたし、今回の合宿もゼミ生の企画のもとに行いました。

これからも、講義やゼミを通じて、学生が社会に出てから十分に力を発揮できるように、様々な角度から指導していきたいと思っています。



ゼ
ミ
紹
介

曾
我
ゼ
ミ

曾我信孝 (教授、マーケティング担当、1981年就任)

曾我ゼミ (マーケティング) の近況

マーケティングの基礎理論を学習し、現代の企業がどのようなマーケティング展開をしているかを研究できる能力を育成することを目指しています。そのために、2年生の間は基礎理論に関する課題を提出し、グループで学習し、その結果を発表・討論しています。3年生では、個人で興味あるテーマを探し、その疑問を解決するための研究をしています。そして、その結果は論文集『粹』として印刷しています。

ゼミ合宿は、十数年前ぐらいから春合宿を行わず、夏合宿だけになっています。在学生の経済環境が必ずしも良くはないと思われた時期から、年間一回の夏合宿 (2泊3日) に切り替えました。2年生の合宿は、文献研究をし、レクリエーションと懇親会で親睦を図っています。3年生は、論文執筆のための合宿ですので、1人当たり2~3時間の指導時間をとります。したがって、3泊4日の日程でも無理がありますので、2班に分けて2泊3日を2回行っています。

もう20年ほど前になりますが、ゼミ生と一緒に考えたディベート大会が現在も続いています。毎年、12月の初旬の日曜日に1日かけて、各学年全員が出席して、チーム戦で学年を越えて戦っています。大会の運営自体は、開始当時と比較すると若干変化していますが、内容的にはほぼ変わらず、開始当初の趣旨を維持しています。そして、有難いことに毎年応援に来ていただけるOBもいます。

最後に、昨年末、五絃舎より『流通の基礎講座』を出版いたしました。本書の性質上、脚注は省略していますが、出典など重要な部分は本文中にあげています。理論と歴史を意識しながら、各種統計を利用して現状分析も行っています。



ゼ

ミ

紹

介

鈴

木

ゼ

ミ

鈴木伸枝（教授、公共経済学担当、2003年就任）

【鈴木から】

4年生の就職活動は概ね順調で、今年はゼミで学んだゲーム理論の知識を活かして地方銀行や労働金庫といった金融機関に就職を決める人が目立ちました。3年次のゼミの時間に、老舗洋菓子メーカーの人事部に勤務する卒業生を招いて就活指南をお願いしたことも、功を奏したようです。この原稿を書いている夏休みには、3年生の多くがインターンシップに参加しています。志望の業界・業種は公務員からIT系まで多岐に渡るので、卒業生の皆さんに様々な形でアドバイスいただければ幸いです。実際に後輩に会ってみたい方、あるいはメール等での相談に乗ってもいいという方、nsuzuki@komazawa-u.ac.jpまでご連絡ください。

私自身の研究面では、昨年度は国際学術雑誌に共著論文が1本掲載されたほか、学内論集に単著論文を1本発表しました。現在は教科書を含む複数の書籍の執筆に関わっています。

【3年生から】

鈴木ゼミは、主に公共経済学とゲーム理論を学ぶゼミです。2年次には先生が指定したマイクロ経済学・ゲーム理論の入門書を、1人2～3節ずつ報告を担当しながら読みました。3年次は自分たちで選んだマーケットデザインの教科書を使い、2～3人で1章を担当するグループ報告を行っています。マーケットデザインは、効率性・公平性の観点から見てできる限り望ましい取引を実現させるために、市場をどう設計したら良いかを考える分野です。ゲーム理論の中で最近特に注目されていると同時に、公共調達や学校選択制といった現実の政策に深い関わりがあり、内容は難しいけれどどのグループも熱意をもって協力しながら学んでいます。

通常のゼミ以外に、毎年1回の合宿で他学年と親睦を深めています。また、2年次には他のゼミと合同で開催される公務員試験勉強会にも参加し、視野を広めることができました。



経済学部同窓会長賞の受賞者

平成27年度の経済学部卒業式は本年3月23日におこなわれました。経済学科384名、商学科255名、現代応用学科138名、合計777名の卒業生が誕生しました。

経済学部同窓会は、在学中勉学に励み、人物にも優れた9名に賞状と記念品（万年筆）を授与しました。

受賞の誇りと自信をもって、今後は社会人として活躍されることを期待しています。

- | | | | |
|-----------|--------|-------|-------|
| 経済学科： | 黒宮 夕貴 | 田嶋 愛美 | 安尾 健 |
| 商学科： | 小川 史貴 | 宮崎 景 | 加藤 裕矢 |
| 現代応用経済学科： | 久保田 広平 | 藤井 貴大 | 飯塚 美咲 |



経済学科：黒宮 夕貴 さん



経済学科：田嶋 愛美 さん



経済学科：安尾 健 さん



商学科：小川 史貴 さん



商学科：宮崎 景 さん



現代応用経済学科：藤井 貴大 さん



現代応用経済学科：飯塚 美咲 さん

ホームカミングデー・プログラム

ホームカミングデー開催日：10月30日（日）

※在校生によるオータムフェスティバル同時開催

ホームカミングデーは卒業生を母校に迎え、駒澤大学の現状を見ていただき、卒業生、教職員、在校生の親睦と交流をはかる催しです。

本年度も開校130周年記念棟建設工事のため、使用できるスペースが限られています。また、在校生に発表の場を提供することを優先し、午後の懇親パーティーは学外で開催することになりました。

ホームカミングデーでは例年1000人を超えるたくさんの卒業生が母校を訪問し、大きな盛り上がりが見られますが、参加者で最も多いのは商経学部・経済学部の卒業生です。ホームカミングデーの受付の隣に経済学部同窓会専用のブースを設け、経済学部同窓会を紹介し、経済学部の資料を配布しています。経済学部同窓会は商経学部・経済学部すべての卒業生に開かれたオープンな組織です。

今年もホームカミングデーに集まり、旧交を温めようではありませんか。

午前・・・オータムフェスティバル見学、教員または名誉教授による講演

会場・・・駒澤大学

午後・・・懇親パーティー

会場・・・ホテルグランドパレス（地下鉄東西線 九段下駅より徒歩3分、羽田空港よりホテル直通リムジンバスあり）

同窓会事務局からのお知らせ

同窓会組織の強化にご協力ください

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで「経済学部同窓会」に加入していない方がおられましたらご紹介ください。未加入の方に事務局から入会案内をお送りします。

「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報の充実のため原稿を募集しています。積極的なご投稿をお願い致します。

- ・ 論題：自由
- ・ 字数：800字以内
- ・ 送付先：駒澤大学経済学部同窓会事務局（下記）

原稿の採否は事務局にご一任ください。

役員を募集しています

ボランティアで同窓会の仕事をしていただける方を募集しています。

軽い仕事なのでご負担になることはありません。

仲間と楽しみながら、同窓会と経済学部の発展のために貢献できます。

有志の方は事務局までご連絡ください。

経済学部同窓会事務局（経済学部事務室内）

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

電話：03-3418-9343